

I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

目標

- 1) 選択必修科目では、人文・社会諸分野の多様な科目を履修し、幅広い視野から社会や文化との関わりの中に科学・技術を位置づける。
- 2) 上級科目では、少人数で双方向的な密度の濃い授業形態をとり、人文・社会諸分野のより高度な問題設定に取り組み、さらに視野を拡大する。
- 3) 自ら問題を発見し、それに答えていくという積極的学習態度の基盤を形成する。
- 4) 専門諸学の基礎となる論理的思考力と言語運用能力を養う。

2. 科目の内容

- 具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

3. 履修上の注意

- 人文社会系選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜1限)

●授業の概要

退屈の哲学：現代社会において、「退屈」がもつ意味について、現象学、心理学等を駆使して分析する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

退屈、気分、現象学

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 退屈な講義について
- 第2回 怠惰について
- 第3回 無為について
- 第4回 変化について
- 第5回 時間について
- 第6回 余暇について
- 第7回 分かりやすさについて
- 第8回 おもしろさについて
- 第9回 退屈は「気分」なのか
- 第10回 退屈な話
- 第11回 動物は退屈するか
- 第12回 退屈と疲労
- 第13回 ニーチェ、ハイデガー
- 第14回 退屈する自由
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。
ラース・スヴェンセン 『退屈の小さな哲学』（集英社新書、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎 「モームの哲学練習」（『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔 「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹 「科学者の創造性」（筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次 「ヨーロッパ・ヒューマンイズムの限界」（同）
- 第10～13回 中村光夫 「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎 「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通してみること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1～2回 批判的・創造的思考
- 第3～5回 推論のやり方
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 因果的説明
- 第9～11回 表現の明確化
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 「分からない」とはどういうことか。
- 第2回 文化的背景の違い
- 第3回 翻訳の問題
- 第4回 日本語の問題
- 第5回 プラトン『パイドン』(1)
- 第6回 プラトン『パイドン』(2)
- 第7回 デカルト『省察』(1)
- 第8回 デカルト『省察』(2)
- 第9回 カント『純粹理性批判』(1)
- 第10回 カント『純粹理性批判』(2)
- 第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』(1)
- 第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』(2)
- 第13回 ハイデガー『存在と時間』(1)
- 第14回 ハイデガー『存在と時間』(2)
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。『プラトン全集』（岩波書店）131.3ⅡP-5Ⅱ1

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

死の哲学：哲学は死の練習と言われるように、死は、古来哲学の中心問題であり続けた。現代医療の発達による死の概念の揺れなどを考慮しつつ、死の問題に迫る。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

脳死、尊厳死、死生観

3. 到達目標

- ・伝統的・現代的（尊厳死、脳死）な死の概念にまつわる哲学的問題を理解する。
- ・それに基づいて、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

4. 授業計画

第1回	哲学は死の練習
第2～6回	ハイデガーの死の哲学
第6回	死の自己決定
第7回	<関係>としての死
第8回	尊厳死
第9回	『往生要集』
第10回	日本人の来世観
第11回	脳死と揺れる死の概念
第12回	死の共同性
第13回	キルケゴール
第14回	ショーペンハウアー
第15回	試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。『生と死の倫理学：よく生きるためのバイオエシックス入門』。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室3階 490.1ⅡS-7

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(金曜2限)

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につける。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回	批判的・創造的思考
第3～5回	推論のやり方
第6回	レポート検討Ⅰ
第7～8回	因果的説明
第9～11回	表現の明確化
第12回	レポート検討Ⅱ
第13～15回	理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学 I Ethics I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 哲学とキリスト教
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』第1巻の要旨
- 第11回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（1）
- 第12回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（2）
- 第13回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（3）
- 第14回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（4）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著/服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学 I Ethics I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題（1）一無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題（2）一よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（1）
- 第11回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（2）
- 第12回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（3）
- 第13回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（4）
- 第14回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（5）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著/藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）4-00-336017-6

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動をコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』第1巻の要旨
- 第11回 『神の国』第2巻の要旨
- 第12回 『神の国』第3巻
一ローマ国家の惨禍と神々の無力（1）
- 第13回 『神の国』第3巻
一ローマ国家の惨禍と神々の無力（2）
- 第14回 『神の国』第3巻
一ローマ国家の惨禍と神々の無力（3）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動をコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題（1）一無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題（2）一よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1巻の要旨
- 第11回 『国家』第2巻一正義の問題の根本的な再提起（1）
- 第12回 『国家』第2巻一正義の問題の根本的な再提起（2）
- 第13回 『国家』第2巻一国家に関する考察
- 第14回 『国家』第2巻一国の守護者の教育
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）4-00-336017-6

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

歴史学Ⅰ History I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

交易史、社会史、モノの歴史学、茶

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例:スパイス
- ③理論・個別事例:茶
- ④大航海時代:1ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代:2中核国の推移
- ⑦大航海時代:3オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地:過去・現在
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト	20%
レポート	20%
期末テスト	60% 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版1(インド東から西へ)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献
 角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。0811IC-111596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Mon1kit@aol.com 1限 Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅰ History I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

(金曜2限)

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。ヨーロッパ諸国やアメリカが世界の資源開発に着手した大航海時代から19世紀の植民地時代までを通過することで、資源開発に関わる人・国家・物・私企業の関係性の変遷が見えてくる。

●授業の目的

17世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の資源開発に焦点をあてる。資源とは何か、資源の所有権、資源開発のプロセス、資源の開発、生産、流通に関する人々の役割、資源開発にともなう諸問題(環境・グローバル化・貧富格差等)について事例を交えて学び歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「資源」や「開発」はヨーロッパやアメリカの経済の歴史を理解する上で、重要なキーワードである。しかし、現代の大規模鉱山は中東、アフリカやラテン・アメリカなど、西洋諸国とは異なるエリアに存在するものが多い。日本でもほんの数十年前まで石炭を中心とする大規模鉱山が各地に存在したが、今や産業遺跡としてのみ形をとどめているものも少なくない。授業ではまず、西洋や植民地における資源の種類(金属・化石燃料等)について個別に学ぶ。また鉱業技術の発達や鉱夫の労働・コミュニティのあり方を理解し、鉱山社会(ヤマ社会)について検討する。資源と開発という現代的な問題をその起源から洗いだしていく。

2. キーワード

資源、開発、技術、グローバル化、東西交流、植民地

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③資源と歴史
- ④植民地と開発
- ⑤事例 鉱物1 開発
- ⑥ 2 生産
- ⑦ 3 流通
- ⑧小テスト
- ⑨事例 石油1 開発
- ⑩ 2 生産
- ⑪ 3 流通
- ⑫事例 森林1 開発
- ⑬ 2 生産
- ⑭ 3 流通
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価レポート①20%・レポート②30%・期末テスト50% 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版4(東南アジア豪華な気分)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

山口梅太郎『放送大学印刷教材140(現代資源論:鉱物資源とその開発)』1986年。375.91H-21140

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Fri2kit@aol.com

歴史学Ⅱ History A Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代（近世・近代）に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわれることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心にみていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

都市史、社会史、文化史、工業化、イギリス、ロンドン

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別事例 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 社会分極化
- ⑧ 小テスト
- ⑨ 4 都市文化
- ⑩ 5 新興都市
- ⑪ 6 都市化・工業化
- ⑫ 7 貧困と福祉
- ⑬ 8 植民地と都市
- ⑭ 9 都市と外国人
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト 20% 2問（各10点）

レポート 20%

期末テスト 60% 3問（25点2問、30点1問）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史 英語（日本語字幕版）7、8、11、14』（図書館HP参照）の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3II-11b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon1kit@aol.com 1限：Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅱ History A Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口1万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間に限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという3つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

2. キーワード

都市史、社会史、比較史、首都、ロンドン、パリ、江戸

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④3つの首都の人口比較
- ⑤事例 江戸 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 身分制社会
- ⑧⑨事例 パリ 1 成立過程
- ⑩ 2 都市社会構造
- ⑪小テスト 3 宗教戦争
- ⑫事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑬ 2 都市社会構造
- ⑭ 3 社会分極化
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

- レポート① 20%
 - レポート② 30%
 - 期末テスト 50%
- 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史英語（日本語字幕版）11、14』（図書館HP参照）の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3ⅡI-1Ⅱb

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Fri2kit@aol.com

文学Ⅰ Literature I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。近代文学の読書法。
- 第2回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第3回 泉鏡花『高野聖』
- 第4回 島崎藤村『破戒』
- 第5回 夏目漱石『こころ』
- 第6回 森鷗外『高瀬舟』
- 第7回 芥川龍之介『奉教人の死』
- 第8回 宮沢賢治『よだかの星』
- 第9回 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第10回 川端康成『雪国』
- 第11回 太宰治『人間失格』
- 第12回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第13回 遠藤周作『海と毒薬』
- 第14回 近代文学のジャンル
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的状況（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『文学を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

文学Ⅱ Literature II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、現代文学を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。現代文学の読書法。
- 第2回 松本清張『或る「小倉日記」伝』
- 第3回 大江健三郎『死者の奢り』
- 第4回 中上健次『一九歳の地図』
- 第5回 宮本輝『螢川』
- 第6回 村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』
- 第7回 山田詠美『風葬の教室』
- 第8回 吉本ばなな『キッチン』
- 第9回 宮部みゆき『理由』
- 第10回 綿谷りさ『蹴りたい背中』
- 第11回 金原ひとみ『蛇にピアス』
- 第12回 川上弘美『離さない』
- 第13回 村上春樹『1Q84』
- 第14回 現代文学のジャンル
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的状況（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『小説を読む』（花書院）

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学

荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

心理学 I Psychology I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 麦島 剛

1. 概要

● 授業の概要

心理学はこころの法則性についての実証的な学術である。その研究対象は多岐に及び、各々にふさわしい研究方法がある。このため、心理学は大きく二分される。一つは、実験研究によって実証する分野であり、知覚・認知・記憶・学習などが扱われる。もう一つは、調査や面接などによって実証する分野であり、教育・人間関係・産業社会・こころの不調などが扱われる。この授業では、前者の領域、つまり実験心理学について概説する。

● 授業の目的

実験心理学の諸分野について満遍なく概観し、そのエッセンスを理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。

2. キーワード

実験心理学・知覚・認知・記憶・学習・生理心理学

3. 到達目標

実験心理学全般に対する知識 (理論と現象の両面) を身に着けること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・こころのサイエンスとは?
- 第2回 心理学史
- 第3回 生理心理学1 神経系の構造と機能 (1)
- 第4回 生理心理学2 神経系の構造と機能 (2)
- 第5回 生理心理学3 神経系と意識・情動・記憶・思考との関係
- 第6回 ストレス理論1 生理学的ストレス理論
- 第7回 ストレス理論2 心理学的ストレス理論とストレスコーピング
- 第8回 知覚心理学1 視覚系の知覚 内的世界と外的世界は同一なのか?
- 第9回 知覚心理学2 聴覚系の知覚 音の精神物理学
- 第10回 認知心理学1 注意とその障害
- 第11回 認知心理学2 記憶とその障害
- 第12回 学習心理学1 学習の2つのプロセス
- 第13回 学習心理学2 学習理論の応用 (臨床心理学やマイクロ経済学への応用)
- 第14回 まとめ 実験心理学の今後の方向性
- 第15回 試験

5. 評価の方法・基準

試験 80% (中間の確認テストを含む)、出席 20% で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書: 定めない。適宜、印刷資料を配布する。
 参考文献: 例えば、木村裕他 (2000) 『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社 140/K-7/2
 西本武彦他 (2009) 『現代心理学入門』川島書店 140/N-2

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

心理学 II Psychology II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位区分: 2 単位
 担当教員名 今村 義臣

1. 概要

● 授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決していない。脳を知ることが、生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

● 授業の目的

“意識とは何か” を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

● 授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

3. 到達目標

- ① 教育・社会系心理学全般に対する知識 (理論と現象の両面) を身に着けること。
- ② 社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳と心1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。
- 第3回 脳と心2
- 第4回 視覚的意識1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。
- 第5回 視覚的意識2
- 第6回 視覚的意識3
- 第7回 視覚的意識4
- 第8回 無意識の再考1 分割脳、幻肢、あるいは、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。
- 第9回 無意識の再考2
- 第10回 無意識の再考3
- 第11回 無意識の再考4
- 第12回 情動と意識1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。
- 第13回 情動と意識2
- 第14回 情動と意識3
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
 使用しない。適宜資料を配付する。
- 参考書
 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp
 月曜 1・2 限

心理学Ⅱ Psychology II

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次

学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位

担当教員名 麦島 剛

1. 概要

(金曜2限)

●授業の概要

近年の社会変化(格差社会への変化等)に伴う抑うつ・自殺・いじめなどの臨床心理学的問題がひろく注目されるようになった。また、ゆとり教育・習熟度別授業・特別支援学校(学級)など、教育をめぐる議論が盛んである。これらの問題の検討と解決のためには、確かな心理学理論の理解が必要となる。心理学Ⅰが実験心理学の概説であるのに対し、本授業では教育・社会系心理学を概説する。

●授業の目的

教育・社会系心理学について理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。なお、前期に心理学Ⅰ(麦島)を受講しているほうが本授業を理解しやすいと思われる。

2. キーワード

発達心理学・人格・知能・臨床心理学・心理療法・社会心理学・組織心理学

3. 到達目標

①教育・社会系心理学全般に対する知識(理論と現象の両面)を身に着けること。

②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーション ころの問題の高まりについて

第2回 発達心理学1 発達理論の基本

第3回 発達心理学2 ピアジェの理論を中心とした発達理論(1)

第4回 発達心理学3 ピアジェの理論を中心とした発達理論(2)

第5回 教育心理学 発達障害児への支援を中心に

第6回 人格と知能の心理学1 性格とは?

第7回 人格と知能の心理学2 知能とは?

第8回 臨床心理学1 精神病理学

第9回 臨床心理学2 各種の心理療法(1)

第10回 臨床心理学3 各種の心理療法(2)

第11回 社会心理学1 社会的認知

第12回 社会心理学2 対人行動

第13回 組織心理学 組織行動論に基づく成果主義の人事の検討

第14回 まとめ 心理学と現代社会

第15回 試験

5. 評価の方法・基準

試験 80% (中間の確認テストを含む)、出席 20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書:定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献:例えば、木村裕他(2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレーション社 140/K-7/2

西本武彦他(2009)『現代心理学入門』川島書店

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校E-mail(mugi@fukuoka-pu.ac.jp)にて受付。

教育心理学 Educational Psychology

対象学科(コース):全学科(教職科目) 学年:1・2年次

学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位

担当教員名 今村 義臣

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

①教育心理学で最低必要な知識(発達、学習、人格と適応、障害児教育等)の習得すること。

②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

4. 授業計画

1回 オリエンテーション

2回 発達1 ころ(脳)の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。

3回 発達2

4回 発達3

5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。

6回 学習2

7回 学習3

8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。

9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。

10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。

11回 人格と適応2

12回 人格と適応3

13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。

14回 障害児2

15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス: gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学 I Pedagogy I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(月曜 2 限)

●授業の目的

現代日本の教育問題・社会問題について、臨床社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題や社会問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している言説を相対化する視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床社会学という立場から教育問題や社会問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 社会問題・社会病理 臨床教育社会学
 社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ①現代日本の教育問題・社会問題に関する理解を深める。
- ②教育問題・社会問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を得る。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 被害者なき犯罪Ⅰ－薬物事犯－
- 3 回 被害者なき犯罪Ⅱ－墮胎－
- 4 回 被害者なき犯罪Ⅲ－性風俗犯－
- 5 回 生殖技術のポリティクス
- 6 回 児童虐待Ⅰ
- 7 回 児童虐待Ⅱ
- 8 回 児童虐待Ⅲ
- 9 回 中期テスト
- 10 回 家庭教育と格差社会
- 11 回 子どもの貧困Ⅰ
- 12 回 子どもの貧困Ⅱ
- 13 回 現代の家族政策
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版社 375.9/H-4
 浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社 368.6/H-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学 II Pedagogy II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(月曜 2 限)

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 日本国憲法 子どもの権利条約 自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 子どもの権利条約
- 3 回 校則問題
- 4 回 公教育と宗教
- 5 回 内申書開示請求
- 6 回 体罰問題
- 7 回 学校事故
- 8 回 いじめ自殺
- 9 回 中間テスト
- 10 回 淫行規制
- 11 回 有害メディア規制
- 12 回 児童虐待Ⅰ
- 13 回 児童虐待Ⅱ
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3
 佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 本館 図書館 373.2/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:2・3年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(金曜2限)

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的立場へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③文章表現力を身につけること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 高校改革と高卒労働市場
- 2回 大学改革の現状
- 3回 大学におけるキャリア教育と大卒労働市場
- 4回 大学教育の収益率Ⅰ
- 5回 大学教育の収益率Ⅱ
- 6回 高学歴化と職業構造の変化Ⅰ
- 7回 高学歴化と職業構造の変化Ⅱ
- 8回 中間テスト
- 9回 採用への道
- 10回 ニート・フリーター問題Ⅰ
- 11回 ニート・フリーター問題Ⅱ
- 12回 労働とジェンダー
- 13回 過労死・過労自殺
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%
 レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
- ②政策文書、各大学のホームページ、企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書 377/T-3
 天野郁夫『学歴の社会史』UP 選書 372.1/A-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education © the 1st period © Monday

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2回 教える者、教えられる者
- 3回 発達と社会化
- 4回 人間の発達段階
- 5回 中間テストⅠ
- 6回 学校制度の国際比較
- 7回 公教育の歴史と制度
- 8回 教育改革の動向
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 中間テストⅡ
- 11回 不登校という選択
- 12回 「いじめ」とは何か?
- 13回 教育のリストラクチャリング
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%
 期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13

田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 家族をめぐる諸問題
- 2回 文化的再生産と教育
- 3回 エスニシティと教育
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 中間テストI
- 6回 メディアと教育
- 7回 現代の子ども文化
- 8回 現代の若者文化
- 9回 少年犯罪言説と少年法
- 10回 少年司法のポリティクス
- 11回 中間テストII
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%

期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を

摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学 Introduction to Japanese Law

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観

第2回 法律とは何か、判例とは何か

第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。

第4回 法律の解釈の仕方を知る①—解釈の方法

第5回 法律の解釈の仕方を知る②—解釈技術

第6回 私法入門—民法の指導原理

第7回 民法上の権利

第8回 権利の限界—私権の公共性

第9回 権利の担い手としての資格①—権利能力

第10回 権利の担い手としての資格②—制限行為能力

第11回 権利の対象となる財産

第12回 取引行為と法①—取引行為の有効要件

第13回 取引行為と法②—無効となる取引

第14回 取引行為と法③—取り消すことができる取引

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 五十嵐 清著 民法入門 [改訂3版] 有斐閣 324/I-2

2) 石川他編集代表『法学六法 '12』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社 321/N-8

2) 佐藤幸治他著『法律学入門 [第3版]』有斐閣 321/S-6

3) 我妻栄=有泉亨=川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324 ISBN: 4326450738

4) 川井 健 『民法総則第3版』有斐閣 324 ISBN: 4641134324

8. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上で欠かせるとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上で有益な素材を与えることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていくのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①－国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③－裁判所・憲法保障
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版補訂版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他編集代表『法学六法 '12』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12/1
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕有斐閣 323.1/K-12/2
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
- 4) 芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

8. オフィスアワー

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 稲月 正

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

技術革新を原動力として私たちの社会の仕組みは大きく変化している。そうしたマクロな社会変化は、私たちの日常のミクロな出来事に影響を与えている。同時に、私たちのミクロな実践が社会の仕組みを変えることもある。私たちは企業人としてのみ生きているのではない。市民として、住民として社会を構成している。それゆえ社会と日常をつなぐ想像力の獲得が、現代を読み解き、よく生きるためには必要である。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、社会集団、社会構造、アノミー、行為の意図せざる結果、官僚制、核家族、移動指標、グローバリゼーション、統合

3. 到達目標

- ①社会的なものの方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」、「家族」、「階層・社会移動」、「グローバル化」「地域社会」「高齢化と福祉」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1－デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2－デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3－ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4－ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1－集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2－官僚制の逆機能
- 第9回 家族1－家族の種類と機能
- 第10回 家族2－近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1－階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2－階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1－グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2－統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（85％）、小課題（15％）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、きちんとノートを取り、考えること。

授業中に出す小課題（適宜）については、問いの意図を正確に理解したうえで回答すること。

7. 教科書・参考書

『現代の社会的な解説』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

その他、適宜、プリントを配布する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受けつける。

社会学Ⅰ Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 高野 和良

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

地域社会、とりわけ農村で進む高齢化、少子化によってもたらされる諸問題と、産業化、都市化といった全体社会の変動との関係を説明する。

●授業の目的

実証的に地域社会、福祉課題を捉える方法論と社会学、地域福祉の理論とを、具体的な事例を取り上げつつ紹介することによって、人口減少社会である農村の福祉課題の実態、それらが生じする社会背景、解決に向けての手がかりなどをつかむことを目的とする。

●授業の位置づけ

これは金曜日の2限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

家族、農村、過疎、高齢化、地域福祉など。

3. 到達目標

- ①社会学のものの見方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」、「家族」、「階層・社会移動」、「グローバル化」「地域社会」「高齢化と福祉」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|------|--------------|
| 第1回 | 社会福祉と社会学 |
| 第2回 | 日本社会における「家」1 |
| 第3回 | 日本社会における「家」2 |
| 第4回 | 家族形態の変動1 |
| 第5回 | 家族形態の変動2 |
| 第6回 | 農村の変動1 |
| 第7回 | 農村の変動2 |
| 第8回 | 過疎地域の現状と課題 |
| 第9回 | 農村の高齢化と福祉問題1 |
| 第10回 | 農村の高齢化と福祉問題2 |
| 第11回 | 農村の高齢化と福祉問題3 |
| 第12回 | 農村の高齢化と福祉問題4 |
| 第13回 | 農村の高齢化と福祉問題5 |
| 第14回 | 農村の高齢化と福祉問題6 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、平常点（15%）で評価する。
 100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 教科書・参考書

●教科書

堤マサエ・徳野貞雄・山本努編、2008、『地方からの社会学』
 学文社 ISBN：9784762017797

その他については、講義中に紹介する。

8. オフィスアワー

講義中、授業終了後の休み時間などに質問等は受け付ける。

社会学Ⅱ Sociology II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堤 圭史郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私たちが普段、何気なく送る日常生活には、見過ごされがちな（もしくは私たちがあえて見ないようにしている）物事が沢山ある。社会学という学問の最も重要な役割とは、日常において「あたりまえ」「当然のもの」と見えている事象について常に疑い、批判的に解体し、そして再構成することにある。そうした「社会的なもの」の見方を通して私たちの社会にある諸現実を捉え返したならば、その「現実」とはこれまでとは全く異なった様相で見えてくるかもしれない。本講義を受講生諸君が、市民として住民として、そして職業人として、社会と人間について深く理解した上で社会にはたらきかける力を身につける契機にしたい。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について、主に相互作用論の観点から理解し、現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、相互行為、社会関係、社会集団、社会構造、社会的意味世界、規範、逸脱、犯罪、非行、差別、偏見、近代、資本制、イデオロギー、絆、正常／異常

3. 到達目標

- ①社会学のものの見方・考え方について理解する。
- ②「犯罪」「非行」「差別」「自己」「若者文化」「つながりの不安」等のテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス どの様なことを学ぶのか |
| 第2回 | 社会的存在としての人間 |
| 第4回 | 社会的見地からみた人間の行為（1）
お手本ものさし |
| 第5回 | 社会的見地からみた人間の行為（2）
よく当たる占いはなぜよく当たるのか |
| 第8回 | 社会的見地からみた人間の行為（3）
ダニと人間はどう違うか |
| 第7回 | 社会的見地からみた人間の行為（4）
日常生活の中にある政治 |
| 第9回 | 逸脱の社会学（1） 逸脱とは何か |
| 第10回 | 逸脱の社会学（2） 規範の崩壊が逸脱をもたらす |
| 第10回 | 逸脱の社会学（3） 逸脱と文化（1） |
| 第10回 | 逸脱の社会学（3） 逸脱と文化（2） |
| 第12回 | 逸脱の社会学（4） 社会の圧力が逸脱をもたらす |
| 第13回 | 逸脱の社会学（5） つながりの欠如が逸脱をもたらす |
| 第14回 | 逸脱の社会学（6） 「レッテル貼り」が逸脱をもたらす |
| 第14回 | 社会問題はつくられる |
| 第15回 | まとめと課題 |

5. 評価の方法・基準

学期末に課す講義内課題（80%）、小課題（20%）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・資料を収めるファイル、ノートを用意し、講義の記録に努めること。
- ・講義で多くふれられない事項については資料を配布する。次回までに必ず読んでおくこと。紹介する参考文献も手に取ってほしい。また、講義で学んだことについて、お茶を飲みながら友達と話をするとよい。

7. 教科書・参考書

教科書は指定しない。資料・プリントを講義時に配布する。また適宜写真・映像等を活用する。参考書は講義期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受け付ける。

社会学Ⅱ SociologyⅡ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 園田 浩之

1. 概要

(金曜2限)

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション(選択肢)がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段(日常)がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方(社会学的想像力)と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というものの」リアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想(その独自性と豊かさ)にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」(より豊かで、柔軟で、批判的な見方)に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。とりわけ、現代社会における「自己」のありよう、他者との関わり((ディス)コミュニケーション)を切り口に、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々(とりわけ若者)の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常(ふだん)」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義にしたい。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。

2. キーワード

社会の現在と自己(アイデンティティ)、ポストモダン(現代)、(ディス)コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「犯罪」「非行」「差別」「自己」「若者文化」「つながりの不安」等のテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題①)
- 第5回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題②)
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
(その現実と日常)
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②
(その豊かさと病理)
- 第9回 若者文化を/から社会学的に考える(若者論再考①)
- 第10回 若者文化を/から社会学的に考える(若者論再考②)
- 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ(不確かな生)
①
- 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ(不可解な他者)②

- 第13回 つながりの不安と過剰
((ディス) コミュニケーションからみる現代社会①)
- 第14回 つながりの不安と過剰
((ディス) コミュニケーションからみる現代社会②)
- 第15回 社会学の使いみち(不安と危機の向こう側へ?)

5. 評価の方法・基準

(講義への一定の出席と参加を条件としたうえで)、講義中のコメントペーパー&小レポート(20%)、学期末試験(80%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

何気ない日常(の成り立ち)を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい(あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む)。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 教科書・参考書

テキストは使用しない(講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める)。

また、講義で扱う事柄(テーマ)に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

8. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に(あるいは講義中にも)、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

経済学 I Economics I (月曜1・2限)

対象学科(コース):全学科 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」、「独占・寡占」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 需要と供給
- 3回 需要曲線と消費者行動
- 4回 費用の構造と供給行動
- 5回 市場取引と資源配分
- 6回 消費者行動の理論
- 7回 消費者行動理論の展開
- 8回 生産と費用
- 9回 一般均衡と資源配分
- 10回 独占の理論
- 11回 ゲームの理論
- 12回 市場の失敗
- 13回 不確実性とリスク
- 14回 不完全情報の経済学
- 15回 異時点間の資源配分

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社 ISBN: 9784535552616

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学 I Economics I (金曜2限)

対象学科(コース):全学科 学年:2・3年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」、「独占・寡占」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 需要と供給
- 3回 需要曲線と消費者行動
- 4回 費用の構造と供給行動
- 5回 市場取引と資源配分
- 6回 消費者行動の理論
- 7回 消費者行動理論の展開
- 8回 生産と費用
- 9回 一般均衡と資源配分
- 10回 独占の理論
- 11回 ゲームの理論
- 12回 市場の失敗
- 13回 不確実性とリスク
- 14回 不完全情報の経済学
- 15回 異時点間の資源配分

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社 ISBN: 9784535552616

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（月曜1・2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済学」、「総需要」、「総供給」、「インフレーション」、「デフレーション」、「有効需要」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ経済における需要と供給
- 3回 有効需要と乗数メカニズム
- 4回 貨幣の機能と信用創造
- 5回 貨幣需要と利率
- 6回 財政政策の基本的構造
- 7回 財政・金融政策とマクロ経済
- 8回 総需要と総供給
- 9回 労働市場の機能と失業問題
- 10回 インフレーションとデフレーション
- 11回 資産市場とマクロ経済
- 12回 金融政策と金融システム
- 13回 経済成長と経済発展
- 14回 国際金融市場と為替レート
- 15回 通貨制度とマクロ経済政策

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21
 その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（金曜2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済学」、「総需要」、「総供給」、「インフレーション」、「デフレーション」、「有効需要」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ経済における需要と供給
- 3回 有効需要と乗数メカニズム
- 4回 貨幣の機能と信用創造
- 5回 貨幣需要と利率
- 6回 財政政策の基本的構造
- 7回 財政・金融政策とマクロ経済
- 8回 総需要と総供給
- 9回 労働市場の機能と失業問題
- 10回 インフレーションとデフレーション
- 11回 資産市場とマクロ経済
- 12回 金融政策と金融システム
- 13回 経済成長と経済発展
- 14回 国際金融市場と為替レート
- 15回 通貨制度とマクロ経済政策

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21
 その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

政治学 I Political Science I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(月曜1・2限)

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「境界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学I及びIIである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
- 第3回 ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1)
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2)
- 第7回 政官関係・公益法人論など
- 第8回 戦争と政治(1)
- 第9回 戦争と政治(2)
- 第10回 従来講義の補足と展開
- 第11回 ナショナリズム論(1)
- 第12回 ナショナリズム論(2)
- 第13回 市民的实践とNGO
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学 I Political Science I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(金曜2限)

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義(1)
- 第4回 自由主義と民主主義(2)
- 第5回 現実主義(1)
- 第6回 現実主義(2)
- 第7回 従来講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任(1)
- 第9回 政治的責任(2)
- 第10回 保守主義(1)
- 第11回 保守主義(2)
- 第12回 従来講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(月曜1・2限)

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互
 連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に
 重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書(の抜粋)等
 の活字資料=プリントや視覚的な教材を活用し、具体的な知識
 の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通時的な講義=筆記で
 はなく、学生諸君の調査・発表(インターネット等も活用)、こ
 れをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民
 あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからとい
 ってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。
 また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現
 象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこ
 でこの講義では、学問としての作法にしたがいがら、政治現象
 と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象
 と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学に
 ついて考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意
 見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政
 治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多元
 主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプ
 ローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについて
 の理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 教育と政治、民主主義との関連など
- 第3回 教育と政治、ケース・スタディ(1)
- 第4回 教育と政治、ケース・スタディ(2)
- 第5回 教育と政治、ケース・スタディ(3)
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方自治
- 第9回 戦争責任論
- 第10回 開発をめぐる国際政治(1)
- 第11回 開発をめぐる国際政治(2)
- 第12回 軍事化と平和研究
- 第13回 補足と展開
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変
 更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
 総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
 初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
 の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生
 き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学
 生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
 を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
 るのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、
 オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(金曜2限)

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基
 本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養
 成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下で
 の現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由
 テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論
 および論述に重点を置く。

2. キーワード

ナショナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプ
 ローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについて
 の理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 ナショナリズム(1)
- 第4回 ナショナリズム(2)
- 第5回 ナショナリズム(3)
- 第6回 文明の衝突?(1)
- 第7回 文明の衝突?(2)
- 第8回 文明の衝突?(3)
- 第9回 従来の講義の補足と展開
- 第10回 多元主義(1)
- 第11回 多元主義(2)
- 第12回 多元主義(3)
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの
 要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
 総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
 初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
 の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生
 き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学
 生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
 を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
 るのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、
 オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究 I Regional Studies I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何かーひとつの視点としての「文化」
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopのローカル化
- 第5回 親族の解釈学1ー親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2ー普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3ー相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 世界のアイドル
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力
- 第13回 世界観パート1ー構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2ー構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Jane Fishburne, Collier and Sylvia Yanagisako, ed., 1987, Gender and Kinship Essays Toward a Unified Analysis. Stanford University Press.
- 3) Sarah Franklin and Suzan Mckinnon ed., 2001, RELATIVE VALUES Reconfiguring Kinship Studies, DUKE UNIVERSITY PRESS.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究 I Regional Studies I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目) 学年 : 1・2 年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰 (伝統の新たな発明であるが) やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ (ミャンマー) 及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ること、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdisposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何か
- 第2回 地域研究のひとつの視点としての象徴人類学
- 第3回 グローバル化を考える 1 : Hip Hopのローカル化
- 第4回 ニューギニアのダリビ族の民族誌 : アナロジックな親族
- 第5回 ニューギニアのGimi族の民族誌 : 交代するジェンダー
- 第6回 ニューギニアのPaiela族の民族誌 : 女が成長のエージェント
- 第7回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌 : アナロジックなジェンダー
- 第8回 グローバル化を考える 2 世界のアイドル
- 第9回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌 (続き)
- 第10回 ニューギニアのpersonの概念とagentの概念 : 市場交換システムと贈与交換システム
- 第11回 東南アジアの民族誌 : イントロダクション
- 第12回 グローバル化を考える 3 ロックの浸透力
- 第13回 新しい親族研究 1
- 第14回 新しい親族研究 2
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート (95%)、出席 (5%) で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Jane Fishburne, Collier and Sylvia Yanagisako, ed., 1987, Gender and Kinship Essays Toward a Unified Analysis. Stanford University Press.
- 3) Sarah Franklin and Suzan Mckinnon ed., 2001, RELATIVE VALUES Reconfiguring Kinship Studies, DUKE UNIVERSITY PRESS.
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S/15

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。また世界各地の映像資料を見ることで均一化とローカル化との間を具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何か
- 第2回 地域研究とひとつの視角としての象徴人類学について
- 第3回 シンボル論—シンボリック・オブジェクションの理論
- 第4回 グローバル化を考える1：世界の民族
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか
《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか
《その②》
- 第8回 グローバル化を考える2 Hip-Hopのローカル化
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰
—祖先の崇りを巡って—
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界
—隠喩のフォース—
- 第12回 グローバル化を考える3 世界のアイドル
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S/15
- 4) Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology. University of Nebraska Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。また世界各地の映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
- 第2回 呪術論基礎（1）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
- 第3回 呪術論基礎（2）－呪術の効果を巡って。
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopのローカル化
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
- 第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の妖術を中心に。因果関係とは何か。
- 第7回 事例検討3：言語行為論－アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
- 第8回 グローバル化を考える2 世界のアイドル
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①－19世紀バリの都市国家：劇場国

家論。

第13回 東南アジアの国家論②－タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論

第14回 総括

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology. University of Nebraska Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止
 第4回～第6回 思考停止するマスメディア
 第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止
 第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか
 第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

郷原信郎 『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第2回 ニセ科学
 第3回～第5回 自然志向の罨
 第6回～第9回 警鐘報道の功罪
 第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：前期・後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いつながりながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出

⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

- プログレス・レポート1 25%
（上記レポート目標①から④各25%）
- プログレス・レポート2 30%（①から⑤各20%）
- ファイナル・レポート 40%（①から⑤各20%）
- 発表および質疑 5% *総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。
502/B-4/1～3（担当教員が管理し、授業中に閲覧した後で貸出）

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人間性と政治（権力分立の問題など）
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化（1）
- 第5回 戦後社会と管理化（2）
- 第6回 戦後社会と管理化（3）
- 第7回 東北アジアと日本（1）
- 第8回 東北アジアと日本（2）
- 第9回 東北アジアと日本（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本（1）
- 第12回 琉球・沖縄と日本（2）
- 第13回 宗教と政治（1）
- 第14回 宗教と政治（2）
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。
 上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自由主義論（1）
- 第3回 自由主義論（2）
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）
- 第7回 市民社会論（1）
- 第8回 市民社会論（2）
- 第9回 市民社会論（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
- 第13回 政治的リアリズム
- 第14回 戦後政治をめぐる
- 第15回 補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域経営論 Regional Management

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

本講義では、地域経営のあり方を検討する上で必要となる視点や考え方を学習する。基本的に、様々な地域問題の原因究明に役立つ学問である「地域経済学」の考え方や理論を中心に講義を進める予定である。また、環境問題や少子高齢化、中心市街地の疲弊など、地域が抱える具体的課題についても検討する。また、こうした議論を踏まえて新時代における地域経営のあり方について展望する。

●授業の位置付け

地域の実情や地域経済学の基礎理論を学習することで、私達の身近にある様々な地域問題に関心を持ち、今後の地域経営のあり方について考えるための基礎を身につける。なお、講義後半はゼミ形式となる。各回テーマに基づき受講者が輪番で報告を行い、全員で討論する。

2. キーワード

「地域経済」、「地域間格差」、「地域間移動と交易」、「産業立地」、「都市システム」、「地方財政」、「まちづくり」など

3. 到達目標

- ①地域経済学の基礎的体系や理論を学び、地域経営やまちづくりのあり方を議論するための学力を身につける。
- ②地域が抱える問題を発見し、解決に向けた処方箋を検討するための基礎的能力を身につける。
- ③プレゼンテーション及びディベートの技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 地域経済学とは
- 3回 地域の所得形成と地域成長の理論
- 4回 地域間格差と人口移動
- 5回 産業立地の理論
- 6回 都市の成立と発展
- 7回 中心市街地の疲弊とまちづくりのあり方
- 8回 グローバル化と地域
- 9回 環境問題と地域
- 10回 IT化の進展と地域
- 11回 地方財政の悪化と地域
- 12回 少子高齢化と地域
- 13回 産業振興と地域
- 14回 雇用問題と地域
- 15回 住宅問題と地域

5. 評価の方法・基準

報告と討論、レポートで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義は、後半からゼミ形式となるため、受講者は積極的な姿勢で講義に臨むことが求められる。特に、報告担当者は十分な準備が必要となる。詳細な注意事項については、初回講義で説明する。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、地域経済やまちづくり、地域経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

産業組織論 Industrial Organization

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

産業の再編成がグローバルな規模で進行するなど、産業・企業を取り巻く環境は劇的に変化しつつある。こうした状況の中、わが国の産業政策や企業経営はどうあるべきか。産業構造の本質を捉えながら、そのあり方を問い直す必要に迫られている。そこで本講義では、産業組織論の基礎理論を学ぶとともに、その基本的な枠組みに沿って現代日本の産業組織と企業経営のあり方について考察する。

●授業の位置付け

産業組織論の学習を通じて、企業行動の理論を理解するとともに、わが国産業経済や企業経営の実態について把握する。

2. キーワード

「独占・寡占」、「製品差別化戦略」、「合併・買収」、「研究開発とイノベーション」、「技術開発を巡る企業間の戦略的連携」など

3. 到達目標

- ①産業組織論の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②産業や企業経営に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 産業組織論の対象と方法
- 3回 企業の理論
- 4回 競争と独占の基礎理論
- 5回 寡占
- 6回 製品差別化と競争
- 7回 参入と戦略的行動
- 8回 協同行動と垂直的取引制限
- 9回 市場成果
- 10回 多角化・合併および企業集団
- 11回 研究開発とイノベーション
- 12回 日本の独占禁止政策の展開
- 13回 直接規制政策
- 14回 日本型産業システムの評価
- 15回 わが国産業政策と企業経営のあり方

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：講義初回に指定する

参考書：新庄浩二[編]『産業組織論』（有斐閣ブックス、1995年）
 ISBN：4641085544

井手秀樹、鳥居昭夫『入門・産業組織』（有斐閣、2010年）
 ISBN：9784641163416

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、産業経済や企業経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 少年法

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 校則問題
- 3回 学校とプライバシー
- 4回 法の下での平等と教育（1）－同和教育論－
- 5回 法の下での平等と教育（2）－外国人児童生徒の教育－
- 6回 法の下での平等と教育（3）－障害児教育論－
- 7回 生命倫理と子ども（1）－非嫡出子問題－
- 8回 生命倫理と子ども（2）－生殖医療問題－
- 9回 生命倫理と子ども（3）－中絶問題－
- 10回 日の丸・君が代と学校
- 11回 エホバの証人剣道受講拒否事件
- 12回 教科書検定裁判
- 13回 旭川学力テスト事件
- 14回 パターナリズム論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
 期末レポート 50%
 プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献 授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

科学表現法 Basic Technical Writing

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子・橘 武史

1. 概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら話を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

2年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べることができるようになりたいと思う学生を対象とする。初めから書ける必要はない。ただし、他人の意図を理解しようとして聴く力が必須である。

2. キーワード

「科学技術」「要旨」「意見文」「根拠」「エンジニア」

3. 到達目標

- ・キーワードや段落構成を考えながら要旨が書ける・根拠に基づいて自分の意見が述べられる
- ・技術の背景や将来性についてより広い見方ができる・エンジニアとして必要なコミュニケーション能力に関して自己評価ができる

4. 授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは特別講義を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士）の評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の意見をまとめる練習をする。また、第1、4、8回にはエンジニアとして実際に遭遇する場面例を紹介し、そこでどのような資質が求められるかなどについても議論する。

- 第1回 オリエンテーション：エンジニアとして必要なコミュニケーションとは
- 第2回 要約文（1）まず書いてみる；バイオメトリクス認証
- 第3回 科学日本語の現場（橘武史先生）
- 第4回 要約（2）見晴らし；折り紙工学
- 第5回 要約（3）段落構成；折り紙工学の応用
- 第6回 要約（4）背景説明；ペットボトルリサイクル
- 第7回 読みやすい日本語とは（橘武史先生）
- 第8回 意見文（1）技術をめぐる視点；生ごみ革命
- 第9回 意見文（2）具体的に書く；無人IT基地開発
- 第10回 意見文（3）まとめの段落に書くべきこと；砂漠での発電
- 第11回 科学日本語の実際（橘武史先生）
- 第12回 特別講義を聴いて討議する（橘武史先生）
- 第13回 特別講義を聴いて討議する（張力峰先生）
- 第14回 特別講義を聴いて討議する（講師未定）
- 第15回 自己評価と授業評価

5. 評価の方法・基準

毎回の課題（60%）、授業への参加度（20%）、意見文課題（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日4限

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
- ②討議に積極的に参加して考えを深める
- ③異なる文化、社会について理解する
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 日本料理と食生活
- 第4回 しつけとマナー、人間関係
- 第5回 若者文化
- 第6回 年中行事
- 第7回 まんが（世界に発信する現代日本文化）
- 第8回 結婚と女性
- 第9回 住宅事情と住文化
- 第10回 宗教と信仰
- 第11回 労働観
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 外国から見た現代日本
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

自分の意見を分かりやすく伝えようと努力すること。相手の実情を理解しようとし、日本との違いはどこからくるのか考えを深めること。関連する項目について図書館等で資料を探して学習する習慣を身につけよう。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考書 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて考えることができる
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価の方法・基準

発表（40%）及び毎回のノート（30%）討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

金曜日3限